

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人権教育研究室
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 「人権教育の基本方針」に基づき、人権教育科目の体系的なカリキュラムマップを作成する。	→人権教育科目のカリキュラムマップの有無。	C
2. 人権教育研究室的活動をメディアに定期的に発信するとともに、人権教育に関わる近隣の大学や公共機関・団体との連携事業を行う。	→メディアからの情報による講演会等への参加者数、および連携事業の開催数。	B
3. 現在の指定研究の再編成を行い、人権教育の新たな展開を研究テーマとした指定研究チームを設置する。	→指定研究チームをひとつ新設する。	C
4. 人権教育科目の企画立案とは別に、写真・パネル展やそれに関連したトークセッションを開催し、人権課題への理解と関心を深める機会を提供する。	→写真・パネル展とトークセッションの企画を、春学期、秋学期のどちらかで一回開催。	B
5. 人権教育研究のホームページに、人権課題の解説や相談窓口の説明文書などに関するコンテンツを拡充する。	→追加拡充したコンテンツ数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

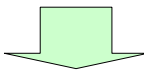
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) あらゆる人権に関する本学の研究・教育・啓発を推進することを目的とする。  (現状説明) 理念・目的を明確にするために、人権教育研究室の下に研究部会、人権教育プログラム委員会を設置し、研究部会の下で4つのチームで指定研究をおこない、人権教育プログラム委員会の下で9種類の人権教育科目の授業を開講している。啓発活動としては、研究会を学内外に公開する公開研究会を開催、また春学期と秋学期にそれぞれ2回大学主催人権問題講演会を主催し、実施している。実績や資源から上記の状況をみると、指定研究部会の研究実績が十分とはいえない。授業科目については受講者数が少なくなっている科目がある。啓発活動は好調におこなわれており、さらに内容を充実するとともに、回数を増加しなければならない。個性化に向けては、映画、写真を材料として用いたり、写真展などの企画についてはその会場を人通りが多い図書館エントランスホールとしたりして个性的に実施している。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 構成員に対する講演会、研究会の周知方法の一つとしては、フライヤー、ポスターを、各学部等の組織に配付し、人権教育科目の受講者に配布している。また、人権教育研究室に係る教員を通して授業等で案内している。周知方法の二つ目としてホームページでニュースを掲載している。社会への公表方法としては、ホームページを通じた広報に加え、人権関係組織（マスコミ、NPO等）や行政部局へ、フライヤー、ポスターを送付している。
☆ 小項目0.0.3	公開研究会等については、毎回アンケートをいただき、これらをまとめ、室長室会で評価し次回につなげている。
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	人権教育科目を総合コースから括り出したことにより、大学としての人権教育の姿勢が明確になった。公開研究会への学内外の参加者が徐々に増加している。
小項目0.0.2	講演会、研究会のマスコミの告知および記事となって公表されることが多くなった。学内の学生新聞にも取り上げられるようになった。
★ 小項目0.0.3	参加者のアンケートから生の意見を聞くことができ、次回のテーマ設定に役立っている。
その他	



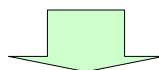
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	指定研究チームの研究をより充実させるため、研究チームの再編等の検討を行う。
小項目0.0.2	学外機関とのネットワークをあらゆる機会を通じて広げていく。
★ 小項目0.0.3	検証成果をホームページ等で公開し、学内外の意見を集約する。
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	指定研究チームの設置目的を再認識し、それぞれの位置づけを明確にする。
小項目0.0.2	ホームページの要素やコンテンツを増加し、リンク先を拡大する。
★ 小項目0.0.3	学生、教職員、外部の生の声が聞こえない。
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	指定研究チームの再編成
小項目0.0.2	ネットワークのリンク先拡大に向けて、各組織との交渉を行う。
★ 小項目0.0.3	外部の意見を聞くために投稿を受け付けるシステムにする。
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	新しい人権教育の基本方針作成への協力
-----------------	--------------------

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 積極的な活動の取り組みは評価できます。
- 「理念・目的」については、もう少し詳しく記述してください。現状説明および個別の事項の記述は、大項目の範囲を離れて、具体的な活動内容に入り込みすぎています。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

## V. 本項目の評価指標

### <全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)―理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)―総合コース「『関学』学」の履修者数

### <個別的な指標>
